

答申の検討にあたっての参考資料

(次期教育ビジョン答申案)

■目次

I 全体構成	別紙
II 基本理念	1
III 育成したい人間像と育成したい力	2
〔育成したい人間像～こんな人を！～〕	
自らの課題や展望を見だし、粘り強く向き合い挑戦する人	2
〔育成したい力～こんな力を！～〕	
・基礎的な知識・技能を身に付け、それを活用する力	2
・自分の気持ちや考え、意見を形成し、伝える力	2
・夢と志を育み、自らの意思で行動する力	3
〔育成したい人間像～こんな人を！～〕	
地域や社会・世界の人々と共に、新たな価値を創造する人	4
〔育成したい力～こんな力を！～〕	
・人々との対話から、自分の世界を広げる力	4
・多様な人と合意形成を図り、考えを融合し、物事を進めていく力	4
・矛盾や対立を乗り越え、意欲的に取り組む力	5
〔育成したい人間像～こんな人を！～〕	
自然や文化を愛し、自他を共に大切にする人	6
〔育成したい力～こんな力を！～〕	
・多様性を認め、わかりにくいことを、わかろうとする力	6
・島根への愛着と誇りをもって、考え行動する力	6
・経験のないことにも、柔らかく向き合う力	7
IV 地域社会	
誰もが安心して学び、共に挑戦できる魅力ある島根	
V 充実させたい教育環境	

II 基本理念

「ふるさと島根を学びの原点に 未来にはばたく 心豊かな人づくり」

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会は急速に変化しており、先行きを見通すことが一層難しい時代となっています。また、少子高齢化が進み人口減少が日本全体の大きな課題となっています。

このような時代を生き抜くためには、島根や身近な地域など、ふるさとの豊かな自然、伝統的な文化・歴史などに対する理解、愛着と誇りを土台に据え、学んでいくことが大切です。

そのような土台の上で、日本や世界を見渡す広い視野を持ち、世界や日本と自分との関係や生まれ育った地域と自分との関係を意識しながら、困難な課題にも、未知の領域にも挑戦する意志を持ち、夢や希望・目標に向かって意欲的に進むとともに、社会に能動的に関わる態度や貢献する心を持つことが大事だと考えます。

また、他人を思いやる心や美しいものに感動する心などの豊かな心は、いかなる時代にあっても身に付けることが重要です。

島根の子どもたちに、島根に育ち学んだ自信を胸に、自らの人生と未来を切り拓き、夢や希望を実現してもらいたい、こうした思いを学校・家庭・地域・行政など、教育に関わるすべての人が共有し、相互に連携しながら取り組んでいきたいと考えます。

Ⅲ 育成したい人間像と育成したい力

〔育成したい人間像 ～こんな人を！～〕

自らの課題や展望を見だし、粘り強く向き合い挑戦する人

〔育成したい力 ～こんな力を！～〕

- ・ 基礎的な知識・技能を身に付け、それを活用する力
- ・ 自分の気持ちや考え、意見を形成し、伝える力
- ・ 夢と志を育み、自らの意思で行動する力

急激な社会的変化が進む中で、変化を前向きに受け止め、人生や生活、社会をより豊かなものにすることや、複雑化・多様化した現代社会の課題に対して、果敢に取り組み粘り強く向き合い挑戦することで、課題解決につながる新たな価値や展望を生み出す人を育てたいと考えます。

そのためには、特に、基礎的な知識及び技能を基盤とし、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、学んだことを自分の人生や社会に生かすことが出来るよう学ぶ意義を理解し、学びに向かう力を養っていくことが必要です。

また、子どもたちの体力に低下傾向が見られることや、睡眠時間の減少や朝食欠食など生活習慣の乱れが、子どもたちの心身の健康へ影響することが懸念されており、子どもたちの基盤となる力を育むためには、体力向上や望ましい基本的な生活習慣の形成が必要です。

〔基礎的な知識・技能を身に付け、それを活用する力〕

変化の激しい社会の中での的確に対応し、新たな価値を創造していくために、体力向上や心身の健康づくりとともに、基礎的な知識・技能を確実に習得し、その習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むことが重要です。そして、知識・技能の習得、活用して得られたことを、さらに探究して自分の考えを形成したり、新たな課題を見いだして解決策を考えたりといった好循環を確立することが重要となります。

〔自分の気持ちや考え、意見を形成し、伝える力〕

課題を発見し、解決の方向を試行錯誤でする上では、自分の考えを他者と共有しながら、対話や議論を通じて互いの見方の共通点や相違点を理解し、相手の考えに共感したり、多様な考えをまとめたりして、協力しながら課題を解決することが大切です。

そのためには、自分の考えを形成し、文章や言葉で表現したり、相手にふさわしい表現を工夫したりして、自分の考えや意見を伝える力が重要です。

〔夢と志を育み、自らの意思で行動する力〕

人が主体的、能動的に行動する上では、進んで何かをしようと思う意欲が不可欠です。また、急激に変化し、価値観が多様化する社会を生きていくためには、予期しなかった問題に直面しても、自分で考え、行動することや、失敗や挫折を乗り越えようとするたくましさが求められます。

学校における教育活動や、学校・家庭・地域が連携した多様な体験活動や人々との交流の中で、子どもたちが社会における自らの役割、将来の生き方や働き方などを考えることで、自分の夢や志を育み、その実現に向かって自らの意志でたくましく行動する力が重要です。

〔育成したい人間像 ～こんな人を！～〕

地域や社会・世界の人々と共に、新たな価値を創造する人

〔育成したい力 ～こんな力を！～〕

- ・人々との対話から、自分の世界を広げる力
- ・多様な人と合意形成を図り、考えを融合し、物事を進めていく力
- ・矛盾や対立を乗り越え、意欲的に取り組む力

多様な人々との出会いや交流、地域社会での豊かな体験を通して、子どもたちは自らの学びの目標を抱くことができます。また、自らの学びの目標に向かって進む中で、多様な人と協働し、刺激し合い、より良い影響や相互作用を与え合いながら、新たな価値を創造し、将来を創り出す人を育てたいと考えます。

そのためには、主体的な学習に加え、人々と関わる中で、自らの世界観に新たな発見をし、視野や考えを広げていく力が必要です。そして、多様な人々と共に目標に向けて協働していくうえで、他者との意見や考えの違いから自分の考えを更に深め、意欲的に目的に応じた納得解を見いだす力が必要です。

〔人々との対話から、自分の世界を広げる力〕

社会生活を営む人間が良好な人間関係を構築するためには、言語や身振り、表情などによって考えや感情などを互いに伝え合わなければなりません。

多様な価値観が存在し、グローバル化の進む社会では、自分と異なる価値観を持つ人や、異なる歴史・文化に立脚する人と意見を交え、より良い形で課題を解決する能力も求められます。

そして、あらかじめ自分で考えたことを、多様な人々との意見交換や議論をしていく中で、新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりするなど、自己の考え・世界を広げ、深めていくことが重要です。

〔多様な人と合意形成を図り、考えを融合し、物事を進めていく力〕

複雑化・多様化した現代社会では、直面する課題に対して一人で解決することは難しく、他者と共に協働しながら解決を図らなければなりません。他者に対して適切に対応しながら、集団の中で協調的に行動し、物事を解決に向けて進めていく力が求められます。

このような力を育むためには、様々な実体験を積み重ね、経験の中から良好な人間関係の形成の仕方を学んでいくことが重要です。特に、学校においては、授業、学校

行事、部活動などの日常的な集団活動を通して、他者と関わり、切磋琢磨し、自分の役割を自覚した上で、集団や社会の一員として、他者と協働して物事を進めていくことが重要です。

また、現代社会は人間関係が希薄化し、SNSなどを利用した互いに顔の見えない、実体の伴わない交流が増えており、学校、家庭、地域が連携し、地域の人々との交流や地域外の世代を超えた交流などを通じて、互いが力を合わせて、何かを成し遂げるような体験を子どもたちができる機会を持つことが重要です。

[矛盾や対立を乗り越え、意欲的に取り組む力]

自分で考えた課題の解決に向けて、他者に説明したり、行動をしていくと、自分の考えが最良のものでなかったり、新たな課題が生じる場合があります。

そこで、多様性を尊重する態度と互いの良さを活かして協働する力を育むとともに、新たな課題の解決に向けて対策を考える、課題の発見と解決、思考と行動を繰り返しながら意欲的に取り組む力が重要となります。

〔育成したい人間像 ～こんな人を！～〕

自然や文化を愛し、自他を共に大切にする人

〔育成したい力 ～こんな力を！～〕

- ・多様性を認め、わかりにくいことを、わかろうとする力
- ・島根への愛着と誇りをもって、考え行動する力
- ・経験のないことにも、柔軟かく向き合う力

豊かな自然や文化を愛するとともに、生命の尊重や思いやりの心など豊かな人間性を育むことは、どのような時代にあっても大切です。

人間関係が希薄な社会にあっては、自分の存在を肯定的に捉え、自分を大切にし、自分の考えや言動に自信を持つとともに、自分と同じように他者の大切さを認め、互いに支え合う人間関係の中で豊かな心を持つ人を育てたいと考えます。

そのためには、自分を大切にすゝる気持ちや他者を思いやる心を育むとともに、公共心、道徳や倫理などを守ろうとする規範意識や、他者を尊重しながらお互いを高め合う人間関係力を身に付けることが大切です。また、島根への愛着と誇りをもつと同時に、身近な地域・島根と日本・世界の関係性を考え、広い視野で行動する力も必要です。そして、経験のない困難な状況においても、自分に自信を持つ、あるいは他者の支えを得ながら、柔軟かく向き合い乗り越えられる力を培うことも必要です。

〔多様性を認め、わかりにくいことを、わかろうとする力〕

子どもたちは様々な人間関係や集団の中で、力を合わせたり、時にはぶつかったりするなどの実体験を通して、自分の考えや気持ちを適切かつ豊かに表現し、また、わかり合うためのコミュニケーション力や、他者の立場に立ってその人に必要な事やその人の気持ちなどが分かるような想像力、共感的に理解する力を得ていきます。

こうした力を育むには、学校だけでなく、家庭・地域の中で大人や異年齢の子どもとの交流の中で、自分が大切にされている実感の積み重ねを通じて、子どもたちの豊かな心を育むことも重要です。

〔島根への愛着と誇りをもって、考え行動する力〕

次代を担う子どもたちに、島根への愛着と誇りを育むためには、本県の美しく豊かな自然、脈々と受け継がれきた文化・歴史、子どもたちを温かく支え育てようとする地域社会などの恵まれた教育環境を生かして、特色ある教育に取り組む必要があります。

身近な地域や島根に愛着と誇りを持つことは、自らの原点を意識することにもつながります。本県での学びを原点に、自らの夢や希望の実現はもとより、日本や世界を見渡す広い視野から社会を考え、能動的に関わる力を培うことが大切です。

〔経験のないことにも、柔軟かく向き合う力〕

生きていく上では、経験のない出来事が起きたり、思いどおりにならないことがあったり、挫折、逆境に直面する場面があります。

このような場面を乗り越えるために、学校生活や実生活の中で、少しずつ目標を達成し、成功体験を積んで自分に自信を持つことや、他者からの支えで困難な状況を乗り越えることを経験して、柔軟かく向き合う力を培うことが大切です。